シラバス集

マロニエ医療福祉専門学校

理学療法学科　3 年

2024 年度

シラバスの見方

※この PDF ファイルには目次(しおり)がついています。スマートフォンを使用中の方は画面上の設定等から目次を呼び出してご利用ください。

授業科目名	①		
実務経験講師	②	実務経験	③
開講年度	④　年度	学　期	⑥
年　次	⑤　年次	授業回数	⑦　回
単 位 数	単位	単位時間数	時間
授業科目の概要	⑧		
授業科目の到達目標	⑨		

授業スケジュールと内容

回	内　容	授業方法	課題／小テスト
1			
2			
3			
4			
5			
6	⑩		
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

使用テキスト	⑪
参考書・資料　等	
この授業科目の前提となる主な科目	
この授業科目から発展する主な科目	
成績評価の方法	
その他 受講生への要望等	

①　授業科目名

②　実務経験講師

講師に担当する科目に関係する実務経験がある場合、「○」がついています。

実務経験とは・・・資格をもっているだけではなく、実際の施設等で資格を活かして働いた経験があるということ。

※一部を除き、違う学校で同様の科目を教えている等の教員経験は実務経験に含まれません。

③実務経験

担当講師の実務経験内容を簡単に記してあります。

④開講年度

⑤年次

授業を受ける学年です。

⑥学期

前期・・・4 月～9 月

後期・・・10 月～3 月

通年（全期）・・・1 年間を通して、もしくは前期～後期にかかるどこかの期間で

⑦授業回数

⑧授業科目の概要

授業内容の大まかな説明です。

⑨授業科目の到達目標

授業が修了した時に到達するべき学修の目標です。

⑩授業スケジュールと内容

内容・・・1 回の授業がどのような内容で構成されているか

授業方法・・・講義、演習、実習など

課題/小テスト・・・その授業の回に課題や小テストが課されている場合は記載されます。予習の内容が書かれている場合もあります。

⑪使用テキスト

授業で使用するテキストの情報です。プリント等オリジナル教材を使用する場合もあります。

別表Ⅰ－4

理学療法学科　授業科目一覧

区分	カリキュラム	授業科目名	指定規則	学校指定		一年生				二年生				三年生				四年生			
						前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期	
			単位数	単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	心理学	14	2	30	2	30														
		物理学		2	30	2	30														
		健康科学		2	30															2	30
		人間関係		2	30	2	30														
		福祉論		2	30	2	30														
		英語Ⅰ		2	30	2	30														
		英語Ⅱ		2	30			2	30												
		生物学		2	30	2	30														
		公衆衛生学		2	30							2	30								
		情報科学		2	30	2	30														
		統計学		2	30	2	30														
基礎分野・小計			14	22	330	16	240	2	30			2	30							2	30
専門基礎分野	人体の構造と機能 及び心身の発達	解剖学Ⅰ	12	4	60	4	60														
		解剖学Ⅱ		4	60			4	60												
		生理学Ⅰ		4	60	4	60														
		生理学Ⅱ		4	60			4	60												
		生理学実習		＊1	＊30			＊1	＊30												
		運動学Ⅰ		4	60			4	60												
		運動学Ⅱ		2	30					2	30										
		運動学実習Ⅰ		＊1	＊30			＊1	＊30												
		運動学実習Ⅱ		＊1	＊30					＊1	＊30										
		人間発達学		2	30					2	30										
	疾病と障がいの 成り立ち及び 回復過程の促進	病理学	12	4	60			4	60												
		臨床心理学		4	60			4	60												
		医学概論・一般臨床医学		4	60					4	60										
		内科学・老年学		4	60					4	60										
		整形外科学		4	60							4	60								
		臨床神経学Ⅰ		4	60					4	60										
		臨床神経学Ⅱ		4	60							4	60								
		精神医学Ⅰ		2	30					2	30										
		精神医学Ⅱ		2	30							2	30								
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	2	2	30	2	30														
		リハビリテーション医学		2	30					2	30										
専門基礎分野・小計			26	63	990	10	150	22	360	21	330	10	150								
専門分野	基礎理学療法学	理学療法概論	35	2	30	2	30														
		臨床運動学		2	30									2	30						
		理学療法症例研究		4	60									4	60						
	理学療法管理学	分野別理学療法学Ⅰ		4	60											4	60				
	理学療法評価学	理学療法評価学Ⅰ		2	30					2	30										
		理学療法評価学Ⅱ		2	30							2	30								
		理学療法評価学Ⅲ		2	30							2	30								
		理学療法評価学Ⅳ		2	30									2	30						
		理学療法評価学実習Ⅰ		＊2	＊60							＊2	＊60								
		理学療法評価学実習Ⅱ		＊1	＊30									＊1	＊30						
	理学療法治療学	運動療法学Ⅰ		2	30							2	30								
		運動療法学Ⅱ		2	30							2	30								
		運動療法学Ⅲ		2	30									2	30						
		運動療法学Ⅳ		2	30									2	30						
		運動療法学実習Ⅰ		＊1	＊30							＊1	＊30								
		運動療法学実習Ⅱ		＊1	＊30							＊1	＊30								
		運動療法学実習Ⅲ		＊2	＊60									＊2	＊60						
		物理療法学		2	30					2	30										
		物理療法学実習		＊1	＊30					＊1	＊30										
		義肢装具学		4	60									4	60						
		義肢装具学実習		＊2	＊60									＊2	＊60						
		日常生活活動学		4	60									4	60						
		日常生活活動学実習		＊1	＊30									＊1	＊30						
		分野別理学療法学Ⅱ		4	60											4	60				
	地域理学療法学	生活環境学		2	30											2	30				
		地域保健・福祉論		2	30															2	30
	臨床実習	基礎実習	＊18	＊1	＊45			＊1	＊45												
		評価実習		＊6	＊270											＊6	＊270				
		評価実習セミナー		＊2	＊60											＊2	＊60				
		臨床実習		＊16	＊720													＊16	＊720		
		臨床実習セミナー		＊1	＊30													＊1	＊30		
専門分野・小計			53	83	2,145	2	30	1	45	5	90	12	240	26	480	18	480	17	750	2	30
選択必修		栄養学		2	30															2	30
		薬理学		2	30									2	30						
		言語聴覚療法		2	30					2	30										
		理学療法総論		8	120															8	120
		卒業研究		4	60															4	60
選択必修科目・小計			－	18	270					2	30			2	30					14	210
合計			93	186	3,735	28	420	25	435	28	450	24	420	28	510	18	480	17	750	18	270

注1) ＊は実習科目の単位（学内実習及び臨床実習）　　注2) 講義及び演習の科目については30時間の授業をもって2単位、学内実習科目は30時間の授業をもって1単位、臨床実習科目は45時間の授業をもって1単位とする。

授業科目名	臨床運動学		
実務経験講師	○	実務経験	理学療法士
開講年度	2024 年度	学　期	前期
年　次	3 年次	授業回数	15 回
単　位　数	2 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	理学療法において動作を治療対象とする場合、その動作に関して分析的な観察と思考を行い訓練プログラムに反映させる。この技術を動作分析という。この授業では理論的な講義と実践を基にこの技術の習得に近づく。非常に重要な実践的技術であるが、習得のための理論背景が複雑でかつスタンダードが示されていないこともあり、練習を重ねる以外に上達の道がない。本講義ではその練習を繰り返し行なうとともに、機器を用いた分析も合わせて行なう。		
授業科目の到達目標	1）各動作・運動の観察と記録、力学的視点による理解、説明ができる。 2）観察し記録した各動作・運動を記述し、運動の系列と運動要素を説明、伝達できる。 3）伝達情報としての価値を持った報告を、分析結果として作成できる。 4）分析結果を問題点や治療に結びつける基礎的な理解をする。 5）機器を利用した分析の基礎を理解する。		

授業スケジュールと内容

回	内　　容	授業方法	課題／小テスト
1	動作分析の基礎 動作分析という技術に関して配布資料をもとにその基礎を講義する。方法論として担当講師が提示する項目を含む情報のまとめ方について説明をする。	講義	
2	動作分析の基礎 1 回のつづき。文章表現以外に記載しなければならない棒人間（stick picture）の描画方法について説明をする。	講義	棒人間の描画を行い次の授業時間に提出する
3	正常動作の観察と分析 1 寝返り、起き上がり動作について映像記録をとる。映像記録の仕方について説明をする。観察の観点についても説明する。	講義と実習	起き上がり動作の映像記録に基づく分析を次の授業までに指定の書式で完成させ提出する。
4	正常動作の観察と分析 2 前回の動作に関する解説。立ち上がり動作についての映像記録と観察の観点説明。	講義と実習	立ち上がり動作の映像記録に基づく分析を次の授業までに指定の書式で完成させ提出する。
5	正常動作の観察と分析 3 前回の動作に関する解説。低床からの立ち上がりについての映像記録と観察の観点説明。	講義と実習	低床からのたち上がり動作の映像記録に基づく分析を次の授業までに指定の書式で完成させ提出する。
6	正常動作の観察と分析 4 正常動作の観察 1-3 のおさらい。	講義と実習	

7	正常動作の観察と分析 5 移乗動作について映像記録をとり、観察の関連を説明する。	講義と実習	移乗動作の映像記録に基づく分析を次の授業までに指定の書式で完成させ提出する。
8	正常動作の観察と分析 6 前回の動作に関する解説。正常動作の分析に関する全体的なまとめをする。	講義と実習	
9	ケーススタディ1 実際の症例を対象にした映像記録をもとに、動作観察から分析を経て問題点の抽出に至る思考過程の実践をおこなう。	講義と実習	症例の動作の映像記録に基づく臨床推論をおこない、指定の書式でまとめ提出する。
10	ケーススタディ2 分析課題の解説。各自が提示した観点と講師が示した観点について比較検討をおこなう。	講義と実習	
11	歩行分析1 歩行分析という技術について、配布資料をもとにその基礎を講義する。正常歩行に関する基礎的知識の復習と、分析に用いる用語の整理をおこなう。	講義	
12	歩行分析2 映像記録の方法について、その理由を含めた技術的伝達をおこない、映像記録を実際にとる。対象となる歩行に関しては、指定の制限歩行とし各自が記録をする役割を担う。	講義と実習	映像記録を基に歩行分析をおこない、指定の書式にまとめ提出をする。
13	歩行分析3 前回の課題提出とそれの解説。	講義と実習	
14	歩行分析4 機器を用いた分析について、担当講師による技術伝達とそれに基づく記録をおこなう。	講義と実習	機器による記録を基に考察を行い、指定の書式にまとめ提出をする。
15	歩行分析 5 記録に基づく動作分析課題の提出と、それの解説。	講義	

使用テキスト	1）齋藤宏 他著：姿勢と動作 第 3 版, メヂカルフレンド 2）飛松好子 編著：新イラストによる安全な動作解除のてびき 第 3 版, 医歯薬出版
参考書・資料 等	1）中村隆一 他著：基礎運動学 第 6 版補訂, 医歯薬出版 2）Kapandji AI 著：カパンディ 関節の生理学, 医歯薬出版 3）Neumann DA 原著：筋骨格系のキネシオロジー, 医歯薬出版 4）Gotz-Neumann K 著：観察による歩行分析, 医学書院 5）Perry J 他著：ペリー 歩行分析 原著第 2 版 正常歩行と異常歩行, 医歯薬出版
この授業科目の前提となる主な科目	1）解剖学 2）生理学 3）運動学

この授業科目から発展する主な科目	1）評価実習 2）臨床実習
成績評価の方法	1）提出課題内容 2）授業態度
その他 受講生への要望等	非常に習得が困難な技術であるため、各自が研鑽に努めること。特に文章表現については分析内容よりも重要視するので、提出課題の誤字脱字、助詞の適切な仕様、医学用語に基づく表現は特に注意すること。また技術背景である解剖学・生理学・運動学の知識が十分に発揮できる内容とすること。 提出課題の遅れについては、繰り返した場合には単位習得を認めない

授業科目名	理学療法症例研究		
実務経験講師	○	実務経験	理学療法士
開講年度	2024 年度	学　期	前期
年　次	3 年次	授業回数	30 回
単　位　数	4単位	単位時間数	60 時間
授業科目の概要	評価実習・臨床実習にむけて患者像を設定し、理学療法の評価から治療までの一連の流れを理解する。症例を設定し、必要な情報を聞き取り症例のレポートを作成する。		
授業科目の到達目標	① 各疾患を理解することができる。 ② 理学療法の評価から治療までの一連の流れを理解できる。 ③ 評価内容から問題点抽出、目標設定、考察（プログラム作成）ができる。 ④ 症例報告のための資料作成、レポート作成ができる。		

授業スケジュールと内容

回	内　　容	授業方法	課題／小テスト
1	ケーススタディの書き方	講義	
2	統合と評価、実際のケースレポート	講義	
3	診療記録・経過記録の書き方	講義	
4	大腿骨頸部骨折（人工骨頭置換術）一般情報	講義	疾患の資料作成
5	大腿骨頸部骨折（人工骨頭置換術）医学情報	講義	疾患の資料作成
6	大腿骨頸部骨折（人工骨頭置換術）PT評価	講義	疾患の資料作成
7	大腿骨頸部骨折（人工骨頭置換術）PT評価	講義	疾患の資料作成
8	大腿骨頸部骨折（人工骨頭置換術）動作分析	講義	疾患の資料作成
9	脳血管障害　一般情報	講義	レポート
10	脳血管障害　医学情報	講義	
11	脳血管障害　PT 評価	講義	疾患の資料作成
12	脳血管障害　PT評価	講義	疾患の資料作成
13	脳血管障害　PT評価	講義	疾患の資料作成
14	脳血管障害　動作分析	講義	疾患の資料作成
15	変形性膝関節症（TKA）一般情報	講義	レポート
16	変形性膝関節症（TKA）医学情報	講義・グループワーク	疾患の資料作成
17	変形性膝関節症（TKA）PT評価	講義・グループワーク	疾患の資料作成
18	変形性膝関節症（TKA）PT評価	講義・グループワーク	疾患の資料作成
19	変形性膝関節症（TKA）動作分析	講義・グループワーク	
20	パーキンソン病　一般情報	講義・グループワーク	疾患の資料作成
21	パーキンソン病　医学情報	講義・グループワーク	疾患の資料作成
22	パーキンソン病　PT評価	講義・グループワーク	疾患の資料作成
23	パーキンソン病　PT評価	講義・グループワーク	疾患の資料作成
24	パーキンソン病　動作分析	講義・グループワーク	
25	日常生活の ROM　動作時 ROM の測定	講義・グループワーク	
26	日常生活の ROM　動作時 ROM の測定	講義・グループワーク	測定結果と考察
27	日常生活の ROM　疾患別の適応と指導方法	講義・グループワーク	測定結果と考察
28	日常生活の ROM　疾患別の適応と指導方法	講義・グループワーク	測定結果と考察

29	失調症　PT 評価	講義	
30	失調症　PT 評価	講義	

使用テキスト	鶴見隆正編「標準理学療法学　専門分野　臨床実習とケーススタディ」医学書院
参考書・資料　等	嶋田智明編 「ケースで学ぶ理学療法臨床思考」文光堂 細田多穂、柳澤健編「理学療法ハンドブック」協同医書出版社 内山靖・他　著「標準理学療法学　専門分野　理学療法評価学」医学書院
この授業科目の前提となる主な科目	解剖学　生理学　運動学　整形外科学　臨床神経学　リハビリテーション医学 理学療法評価学　運動療法学
この授業科目から発展する主な科目	評価実習　疾患別理学療法学　臨床実習
成績評価の方法	評価時期：終講時 評価対象および配分：課題提出・参加態度
その他 受講生への要望等	この科目の基礎となる科目の復習をしておくこと。 実習やグループワークをする際は積極的に行動すること。

授業科目名	分野別理学療法学Ⅰ		
実務経験講師	○	実務経験	理学療法士
開講年度	2024 年度	学　期	後期
年　次	3 年次	授業回数	30 回
単 位 数	4 単位	単位時間数	60 時間
授業科目の概要	評価実習による臨床経験後の状況において、理学療法の主要対象である各疾患への対応方法について、臨床現場から講師を招きオムニバス形式で行なう授業である。実習後評価としての評価実習セミナーにおける評価実習２期目の症例報告の準備と、臨床実習に向けた訓練プログラムの技術的な向上を目的として授業を行う		
授業科目の到達目標	1）理学療法における訓練プログラム立案に関する総合的な理解ができる。 2）臨床実習を踏まえた各主要疾患の総合的な理解ができる。 3）各主要疾患の理解と訓練プログラムとの関係性が説明できる。 4）訓練プログラムの実行にあたり、基本的な手技が実行できる。 5）訓練プログラム立案のために必要な知識や資料を自ら収集できる。		

授業スケジュールと内容

回	内　　容	授業方法	課題／小テスト
1-2	介護保険と理学療法 介護保険制度に関する現状と展望、理学療法との関連についての講義。	講義	
3-4	呼吸循環器疾患 呼吸循環器疾患の理学療法に関する総合的な講義と実技。実技には HOT、NPPV および喀痰吸引に関する講義と実技を含む。	講義、実習	
5-6	呼吸循環器疾患 同上	講義、実習	
7-8	呼吸循環器疾患 同上	講義、実習	
9-10	心臓リハビリテーション 循環器疾患の理学療法に関する講義と実習。	講義、実習	
11-12	心臓リハビリテーション 同上	講義、実習	
13-14	神経疾患 神経疾患の理学療法に関する総合的な講義と実技。	講義	
15-16	神経疾患 同上	講義	
17-18	小児疾患 小児疾患の理学療法に関する総合的な講義と実技。	講義	

19-20	小児疾患 同上	講義	
21-22	脊髄損傷 脊髄損傷者の QOL や、生活に関する理学療法の観点等についての講義と使用機器についての体験を含む実技。	講義、実習	
23-24	脳血管疾患・他 脳血管疾患の患者に対する評価と治療	講義、実習	
25-26	回復期リハビリテーション 回復期の患者に対する評価と治療	講義、実習	
27-28	バランス評価 配布資料に基づくバランスというシステム的な能力に関して生じがちな誤認識の修正と知見の拡大を目的とした講義。	講義	バランスの分析能力に関して、力学的解釈と表現の課題を課す。
29-30	定期試験 各疾患における総合的な知識が臨床実習レベルにあるかを筆記試験にて確認する。	筆記試験	

使用テキスト	特になし
参考書・資料　等	1）各講師の配布資料　2）石川齊　他編：図解　理学療法技術ガイド，文光堂
この授業科目の前提となる主な科目	1）基礎医学すべて 2）臨床医学すべて
この授業科目から発展する主な科目	1）評価実習セミナー 2）臨床実習
成績評価の方法	1）筆記試験 2）授業態度
その他 受講生への要望等	臨床経験豊富な講師によるオムニバス形式の授業である。非常に貴重な機会であるため余さず情報を受け止められるように、基礎医学・臨床医学の基本的知識はすべての授業において十分な準備をして臨むこと。

授業科目名	理学療法評価学Ⅳ		
実務経験講師	○	実務経験	理学療法士
開講年度	2024 年度	学　期	前期
年　次	3 年生	授業回数	15 回
単　位　数	2 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	理学療法を実施するために、対象者の全体像をとらえることは、とても大切な事である。理学療法評価学では、そのために必要な評価についてⅠからⅣに分けて学ぶ。評価は時として「理学療法は評価に始まり評価に終わる」と言われるほど重要である。講義内容は理学療法評価学実習に繋がる。Ⅳでは片麻痺運動機能検査や協調性検査、脳神経検査、高次脳機能検査などを学ぶ。		
授業科目の到達目標	① 筋トーヌス検査について説明できモディファイド・アシュワース・スケールをいえる ② 片麻痺運動機能検査（Brunnstorom stage）の検査内容をいえる ③ 協調性検査の検査方法をいえる ④ 脳神経検査の検査方法がいえる ⑤ 高次脳機能検査の検査方法が言える ⑥ 閉塞性呼吸障害と拘束性呼吸障害について説明できる ⑦ 変性筋や神経の時値（クロナキシー）の特徴がいえる		

授業スケジュールと内容

回	内　　容	授業方法	課題／小テスト
1	導入 ・理学療法評価学Ⅰ～Ⅲの内容確認	講義：教科書①	確認小テストの実施
2	運動発達検査、姿勢反射検査 ・運動発達検査の特徴（遠城寺式など） ・対称性緊張性頚反射や非対称性緊張性頚反射	講義：教科書①	
3	筋トーヌス検査 ・様々な筋緊張検査 ・アシュワーススケールについて	講義：教科書①と参考書①	
4	片麻痺運動機能検査 ・中枢性麻痺について ・陰性徴候と陽性徴候	講義：教科書①	
5	片麻痺運動機能検査 ・Brunnstrom stage について	講義：教科書①	
6	片麻痺運動機能検査 ・Brunnstrom stage について	講義：教科書①	
7	協調性検査 ・運動失調について	講義：教科書①と参考書①	

8	協調性検査 ・検査の実際	講義：教科書①と参考書①	
9	脳神経検査 ・12 脳神経検査の実際	講義：教科書①と参考書①	
10	高次脳機能検査 ・認知症検査について	講義：教科書①と参考書①	
11	高次脳機能検査 ・失行と失認	講義：教科書①と参考書①	
12	呼吸、循環機能検査・電気生理学的検査 ・閉塞性肺疾患と拘束性肺疾患 ・血圧測定、頻脈と徐脈、心電図 ・基電流と時値（クロナキシー） ・変性筋や変性神経における時値の特徴	講義：教科書①	
13	画像所見の見方 ・画像所見とは ・X 線画像・CT 画像・MRI 画像	講義：教科書①	
14	理学療法評価学のまとめ ・すべての評価に関する質疑応答	講義	
15	定期試験		

使用テキスト	① 潮見泰藏、「リハビリテーション基礎評価学」第 2 版、羊土社
参考書・資料　等	① 田崎義昭・他　著、「ベッドサイドの神経の診かた」、南山堂
この授業科目の前提となる主な科目	①「理学療法評価学Ⅲ」②「臨床神経学Ⅰ・Ⅱ」③「内科学」
この授業科目から発展する主な科目	①「理学療法評価学実習Ⅰ・Ⅱ」②「評価実習」③「臨床実習」
成績評価の方法	① 定期試験（筆記）
その他 受講生への要望等	① 受講中の疑問点は、なるべくその場で質問することを勧めます。もちろん講義終了後でも可。 ② 質問に対しては、間違っても良いので何かしら答えるようにしてください。

授業科目名	理学療法評価学実習Ⅱ		
実務経験講師	○	実務経験	理学療法士
開講年度	2024 年度	学　期	前期
年　次	3 年次	授業回数	15 回
単　位　数	1 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	理学療法を効果的に施行するためには、正確かつ適切な理学療法評価を行なうことが重要である。「理学療法評価学実習Ⅱ」では、「理学療法評価学実習Ⅰ」で未習得であった検査・測定の技術ならびに記録法を習得する。また、その内容について検討・討議し後期の「評価実習」に備える。さらに、既に習得した検査・測定の技術を臨床に即して応用する能力を養う。		
授業科目の到達目標	① 知覚（感覚）検査を対象者への配慮を考慮しつつ実施できる ② 各種反射検査を実施できる ③ 片麻痺機能検査（主に Brunnstrom stage）を実施できる ④ 協調性検査を実施できる ⑤ 脳神経検査・高次脳機能検査を実施できる ⑥ 各疾患に必要な検査測定項目を挙げ実施できる ⑦ 得られた検査測定結果を統合・解釈ができる		

授業スケジュールと内容

回	内　　容	授業方法	課題／小テスト
1	知覚（感覚）検査 ・表在感覚検査（触覚、痛覚、温度覚） ・深部感覚（位置覚、運動覚、振動覚）	実習	以前の講義内容を確認しておく
2	反射検査 ・腱反射（上腕二頭筋、三頭筋、膝蓋腱、アキレス腱） ・表在反射、病的反射	実習	以前の講義内容を確認しておく
3	片麻痺機能検査 ・筋緊張の診かた ・Brunnstrom stage	実習	以前の講義内容を確認しておく
4	協調性検査 ・スクリーニングのための検査 ・各項目の詳細検査	実習	以前の講義内容を確認しておく
5	脳神経検査 ・12 脳神経検査	実習	以前の講義内容を確認しておく
6	高次脳機能検査 ・認知症スケール ・失行（観念失行など）　・失認（半側空間無視）	実習	以前の講義内容を確認しておく
7	骨折患者の評価	講義と実習	以前の講義内容を確認

	・評価項目の抽出（骨折特有の評価） ・完全免荷での移乗動作		しておく
8	リウマチ患者の評価 ・評価項目の抽出（リウマチ特有の評価） ・起居動作	講義と実習	以前の講義内容を確認しておく
9	症例の統合と解釈 ・4 年生セミナーとの合同 ・症例の評価項目と問題点の抽出を中心として	セミナー	以前の講義内容を確認しておく
10	症例の統合と解釈 ・4 年生セミナーとの合同 ・症例の評価項目と問題点の抽出を中心として	セミナー	以前の講義内容を確認しておく
11	片麻痺患者評価 ・問診・ROM-t・感覚検査・片麻痺機能検査 ・MMT　・動作分析（起居、歩行）　など	患者による実習	以前の講義内容を確認しておく
12	片麻痺患者評価 ・問診・ROM-t・感覚検査・片麻痺機能検査 ・MMT　・動作分析（起居、歩行）　など	患者による実習	以前の講義内容を確認しておく
13	脊髄損傷患者評価 ・問診・ROM-t・感覚検査（デルマトーム） ・MMT　・動作分析（起居、移乗）　など	患者による実習	以前の講義内容を確認しておく
14	脊髄損傷患者評価 ・問診・ROM-t・感覚検査（デルマトーム） ・MMT　・動作分析（起居、移乗）　など	患者による実習	以前の講義内容を確認しておく
15	実技試験 ・理学療法評価学実習総合試験		

使用テキスト	① 潮見泰藏、「リハビリテーション基礎評価学」第 2 版、羊土社 ② 田崎義昭・他 著、「ベッドサイドの神経の診かた」、南山堂
参考書・資料　等	①　中村利孝・松野丈夫 監修、「標準整形外科学」第 15 版、医学書院 ② 津山直一・中村耕三（訳）、「新・徒手筋力検査法」原著第 9 版、協同医書出版社
この授業科目の前提となる主な科目	①「理学療法評価学Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ」②「理学療法評価学実習Ⅰ」③「臨床神経学Ⅰ・Ⅱ」 ④「整形外科学」
この授業科目から発展する主な科目	①「評価実習」②「臨床実習」③「理学療法総論」
成績評価の方法	① 実技試験
その他 受講生への要望等	① 実習における目前のパートナーは学生ではなくて対象者であるという意識で練習すること ② とにかく練習の回数を重ねることが技術習得の近道であることを忘れないように

授業科目名	運動療法学Ⅲ		
実務経験講師	○	実務経験	理学療法士
開講年度	2024 年度	学　期	前期
年　次	3 年生	授業回数	15 回
単　位　数	2 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	片麻痺の運動療法を中心に、中枢神経疾患全般の運動療法を扱う。片麻痺の運動療法には、様々なアプローチ法が開発されており、これらを理解するために重要な、基本的知識と技術を学ぶ。また、周辺技術として「痛みに対処する」という視点を扱う。		
授業科目の到達目標	① 中枢神経疾患患者の運動療法の基本が理解できる。 ② 片麻痺患者を評価し、基本的なアプローチができる。 ③ 学外実習で、様々な考え方の指導を有効に受けられる。 ④ 片麻痺患者の肩痛など、痛みに対する運動療法が理解できる。 （全体の理解度を見ながら、内容や進む速さを調整します。）		

授業スケジュールと内容

回	内　　容	授業方法	課題／小テスト
1	「脳および身体の進化」という観点から、人間の動きの基本を考える。 （PNF で示される基本的な動きの理解など）	講義	
2	中枢神経系の運動制御 1（中枢神経系概観） 反射・反応、中枢神経系の階層性など	講義	
3	中枢神経系の運動制御 2 片麻痺患者のトータルパターン	講義	
4	中枢神経系の運動制御 3 随意運動の神経学的理解、穿通枝	講義	
5	中枢神経系の運動制御 4 抑制予期的姿勢制御	講義	
6	中枢神経疾患の対処方針と、片麻痺患者に対する具体的なプログラムの立案 活動と重力	講義	
7	中間試験	講義	確認テスト
8	片麻痺の総復習	講義	
9	片麻痺の様々なアプローチ法の紹介（考え方の基本） 筋緊張のコントロール、CI療法、川平法、装具療法など	講義	
10	片麻痺患者の肩関節機能	講義	
11	疼痛について 疼痛に対する運動療法	講義	
12	片麻痺に対する評価、考え方	講義	
13	片麻痺に対する評価、運動療法（促通、抑制、反射）	講義	
14	総まとめ	講義	
15	定期試験		ペーパー試験

使用テキスト	プリントを配布する。 その他、これまでの関連授業で用いた中枢神経関連のテキストを用いる。
参考書・資料　等	1)P.M.デービス著：Steps To Follow. シュプリンガー・フェアクラーク東京 2)宮本省三著：片麻痺、協同医書出版社 3)古澤正道、他：脳卒中後遺症者へのボバースアプローチ、運動と医学の出版社
この授業科目の前提となる主な科目	解剖学・神経内科学・運動学
この授業科目から発展する主な科目	疾患別運動療法、学外実習
成績評価の方法	筆記試験 臨床の現場で実習する事をふまえて、学ぶ者としての態度、専門職としての態度も評価の対象とする。
その他 受講生への要望等	中枢神経疾患はまだわからないことが多く、様々な治療アプローチが存在している。また、iPS 細胞など、昨今の医療の急速な発展により、運動療法も大きく変化していくことが予想される。従って学生として重要な事は、何と言っても「基本」をしっかり身につけるという事である。研鑽を積んでもらいたい。 運動療法学実習Ⅲと一体の授業である。また他の教科で学ぶ関連項目の内容も当然含まれる。適宜復習を怠らないようにしてほしい。

授業科目名	運動療法学Ⅳ		
実務経験講師	○	実務経験	理学療法士
開講年度	2024 年度	学　期	前期
年　次	3 年次	授業回数	15 回
単 位 数	2 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	呼吸・循環・代謝機能障害に対する理学療法の展開には、病態や治療に関する知識が必要であり、また、運動中の監視や治療効果の判定に用いる指標も多職種と共有しなければならない。本授業では循環や代謝の特に運動時の生理学を復習し、病態に応じた診断・評価・治療の流れを学ぶ。		
授業科目の到達目標	①循環の運動生理学を理解できる。 ②代謝の運動生理学を理解できる。 ③呼吸器疾患とその症状や病態を理解できる。 ④循環器疾患とその症状や病態を理解できる。 ⑤呼吸理学療法を実施するための評価法を学び実践できる。 ⑥心臓リハビリテーションを実施するための評価法を学び実践できる。		

授業スケジュールと内容

回	内　　容	授業方法	課題／小テスト
1	呼吸リハビリテーション概論 教科書　1 章	講義	
2	フィジカルアセスメント・呼吸アセスメントのための手技 教科書　5 章	講義	
3	胸郭と肺・聴診 教科書　5 章	講義	
4	呼吸機能検査・酸塩基調節 配布資料	講義	
5	肺疾患 ① 教科書　13・14 章	講義	
6	肺疾患 ② 教科書　13・14 章	講義	
7	呼吸理学療法 ① 教科書　7・9 章	講義	
8	呼吸理学療法 ② 教科書　7・9 章	講義	
9	臨床に役立つ排痰の理論と技術 教科書　8 章	講義	
10	呼気介助手技とその留意点 教科書　9 章	講義	

11	聴診・吸引 教科書　5・15 章	実技	
12	心臓リハビリテーションとは 教科書　12 章	講義	
13	心臓リハビリテーションの評価と治療 教科書　13・14 章	講義	
14	心電図の診かた 教科書　2 章	講義	
15	定期試験	試験	

使用テキスト	1）　石川　朗編　「内部障害理学療法学　呼吸」中山書店 2）　石川　朗編　「内部障害理学療法学　循環・代謝」中山書店
参考書・資料　等	1）　内山靖・他　著「標準理学療法学　専門分野　運動療法学総論」医学書院 2）　高橋　仁美・他　編　「フィジカルアセスメント　徹底ガイド　呼吸」　中山書店
この授業科目の前提となる主な科目	生理学、内科学
この授業科目から発展する主な科目	評価実習、疾患別理学療法学、臨床実習
成績評価の方法	評価時期：終講時および定期試験 評価対象および配分：試験・小テスト・課題提出・出席状況・参加態度
その他 受講生への要望等	受講にあたり、生理学、内科学の復習をしておくこと。 受講後、理解できかった点は講師に聞きに来ること。 実習やグループワークをする際は積極的に行動すること。

授業科目名	運動療法学実習Ⅲ		
実務経験講師	○	実務経験	理学療法士
開講年度	2024 年度	学　期	前期
年　次	3 年生	授業回数	30 回
単　位　数	2 単位	単位時間数	60 時間
授業科目の概要	片麻痺の運動療法を中心に、中枢神経疾患全般の運動療法を扱う。片麻痺の運動療法には、様々なアプローチ法が開発されており、これらを理解するために重要な、基本的知識と技術を学ぶ。また、周辺技術としてマッサージや基本的な知識などを、「痛みに対処する」という視点から扱う。		
授業科目の到達目標	① 中枢神経疾患患者の運動療法の基本が理解できる。 ② 片麻痺患者を評価し、基本的なアプローチができる。 ③ 学外実習で、様々な考え方の指導を有効に受けられる。 ④ 片麻痺患者の肩痛など、痛みに対する運動療法が理解できる。 （全体の理解度を見ながら、内容や進む速さを調整します。）		

授業スケジュールと内容

回	内　　容	授業方法	課題／小テスト
1･2	PNF 基本パターンの習得（促通、抑制の概念）	実習	
3･4	PNF 基本パターンの習得（上肢のパターン） ・基本パターンを通して促通・抑制の概念を理解する	実習	
5･6	PNF 基本パターンの習得（下肢のパターン） ・基本パターンを通して促通・抑制の概念を理解する	実習	
7･8	片麻痺患者の運動療法 ・典型的な動き（異常な動き）の理解 ・トータルパターンの模倣	実習	
9･10	片麻痺患者の運動療法 ・ポジショニングを中心に片麻痺治療の基本を考える ・片麻痺の肩の痛みなどを二次的障害としてとらえる	実習	
11･12	片麻痺患者の運動療法 ・問題点の抽出、治療方針の選定、運動療法の実施 ・PNF 特殊テクニックおよび ADL 訓練への応用	実習	
13･14	片麻痺患者の運動療法 ・寝返りアプローチ	実習	
15･16	片麻痺患者の運動療法 ・坐位アプローチ		
17･18	片麻痺患者の運動療法 ・立ち上がりアプローチ	実習	
19･20	片麻痺患者の運動療法 ・反射、反応を利用したアプローチ		
21･22	片麻痺患者の運動療法 ・歩行アプローチ	実習	
23･24	片麻痺患者の運動療法 ・荷重訓練	実習	

25･26	疼痛に対する運動療法 ・浮腫マッサージ、AKA、モビライゼーション、等	実習	
27･28	片麻痺の運動療法の総復習 ・対処方針と具体的なプログラムの立案及び実施	質疑応答	
29･30	定期試験	実技試験	

使用テキスト	運動療法学Ⅲのプリント その他、これまでの関連授業で用いた中枢神経関連のテキストを用いる。
参考書・資料　等	1)P.M.デービス著：Steps To Follow. シュプリンガー・フェアクラーク東京 2)宮本省三著：片麻痺、協同医書出版社 3)古澤正道、他：脳卒中後遺症者へのボバースアプローチ、運動と医学の出版社
この授業科目の前提となる主な科目	運動療法学Ⅲ・解剖学・神経内科学・運動学
この授業科目から発展する主な科目	疾患別運動療法・学外実習
成績評価の方法	期末の実技試験・口頭試問を中心に評価する。 臨床の現場で実習する事をふまえて、学ぶ者としての態度、専門職としての態度も評価の対象とする。
その他 受講生への要望等	運動療法学Ⅲと一体の授業である。また他の教科で学ぶ関連項目の内容も当然含まれる。適宜復習を怠らぬようにしてほしい。

授業科目名	義肢装具学		
実務経験講師	○	実務経験	理学療法士
開講年度	2024 年度	学　期	前期
年　次	3 年次	授業回数	30 回
単　位　数	4 単位	単位時間数	60 時間
授業科目の概要	JIS 用語で義肢（prosthesis）は「切断によって四肢の一部を欠損した場合に、元の手足の形態または機能を復元するために装着、使用する人工の手足」で、装具（orthosis）は「四肢・体幹の機能障害の軽減を目的として使用する補助器具」とされている。つまり障害の補完・補助機能であり、よりよく生活するためのツールである。この科目では、その具体的内容を学ぶ。		
授業科目の到達目標	① 義肢装具の処方における留意点（8 つ）をいえる ② 切断手技と術後のケアを説明できる ③ 切断者のリハビリテーション（主に ADL）をいえる ④ 各義足の名称・使用パーツ名・特徴、義手のパーツ名をいえる ⑤ 義足使用による異常歩行の名称・原因・対処方法をいえる ⑥ 装具使用対象疾患の特徴・装具名と特徴をいえる ⑦ 装具作製上の留意点をいえる		

授業スケジュールと内容

回	内　　容	授業方法	課題／小テスト
1・2	総論 ・歩行のバイオメカニクス ・義肢装具のバイオメカニクス、処方	講義： 教科書と配布資料による	運動学で習った歩行について復習しておく
3・4	切断 ・切断の原因と適応 ・切断手技と術後ケア、合併症	講義： 教科書と配布資料による	復習中心で新たな名称をとにかく覚える
5・6	義肢総論 ・義肢の概念・歴史 ・義肢の名称と種類	講義： 教科書による	復習中心で新たな名称をとにかく覚える
7・8	下腿義足 ・下腿切断の特徴、下腿義足のソケット ・足部の種類	講義： 教科書と配布資料による	復習中心で新たな名称をとにかく覚える
9・10	下腿義足 ・下腿義足の構成とアライメント ・下腿義足の特徴	講義： 教科書による	復習中心で新たな名称をとにかく覚える
11・12	大腿義足 ・大腿切断の特徴、大腿義足ソケット ・膝継手	講義： 教科書による	復習中心で新たな名称をとにかく覚える

13･14	大腿義足 ・大腿義足の構成とアライメント ・大腿義足歩行の特徴と異常歩行	講義： 教科書と板書にて	復習中心で新たな名称をとにかく覚える
15･16	股義足 ・股義足ソケット、股義足構成とアライメント ・股義足歩行の特徴	講義： 教科書による	復習中心で新たな名称をとにかく覚える
17･18	その他の義足 ・膝義足、4 節リンク膝 ・サイム義足、足部部分義足	講義： 教科書による	復習中心で新たな名称をとにかく覚える
19･20	義手 ・上肢の切断、義手の歴史 ・義手の構造と名称	講義： 教科書と配布資料による	復習中心で新たな名称をとにかく覚える
21･22	装具総論 ・装具の特徴 ・股、膝、足継手	講義： 教科書と配布資料による	復習中心で新たな名称をとにかく覚える
23･24	各疾患に対する装具 ・片麻痺の下肢装具 ・対麻痺の下肢装具、小児装具	講義： 教科書と配布資料による	復習中心で新たな名称をとにかく覚える
25･26	各疾患に対する装具 ・整形外科的治療装具、靴型・足装具 ・頸椎装具、側彎装具、腰背痛の装具	講義： 教科書と配布資料による	復習中心で新たな名称をとにかく覚える
27･28	各疾患に対する装具 ・リウマチ装具、末梢神経損傷装具 ・手の外科の術前術後装具 ・頸椎損傷の上肢装具	講義： 教科書と配布資料による	復習中心で新たな名称をとにかく覚える
29･30	定期試験		

使用テキスト	① 川村次郎・竹内孝仁 編著、「義肢装具学」、医学書院
参考書・資料 等	① 日本整形外科学会、「義肢装具のチェックポイント」、医学書院 ② 澤村誠志 著、「切断と義肢」、医歯薬出版
この授業科目の前提となる主な科目	①「運動学Ⅰ・Ⅱ」②「整形外科学」
この授業科目から発展する主な科目	①「評価実習」②「臨床実習」③「理学療法総論」
成績評価の方法	定期試験（筆記）
その他 受講生への要望等	① 義肢装具を作製するにあたり義肢装具士（PO）との共通言語となるため必ず覚える ② 新たに覚えなければならない名称が多数あり、一夜漬けでの暗記は無理なため毎日コツコツと

授業科目名	義肢装具学実習		
実務経験講師	○	実務経験	①義肢装具士　②理学療法士　③作業療法士
開講年度	2024 年度	学　期	前期
年　次	3 年次	授業回数	30 回
単　位　数	2 単位	単位時間数	60 時間
授業科目の概要	臨床の場面で義肢装具の作製をすることはあまりない。ほとんどの場合はオーダーにかかわり義肢装具士（PO）が作製したもののチェックアウトを実施する。作製手順に携わることで、どの部分は仕様変更可能かを知ることが可能となり、よりよい義肢装具の提供につながる。また、義肢装具の構造の理解につながる。		
授業科目の到達目標	① 靴べら型プラスチック短下肢装具の作製手順を説明できる ② 義足のチェックアウトが可能となる ③ 義足のアライメント調整を説明できる ④ 4 節リンク膝継手の構造による特徴をいえる ⑤ スプリントの作製手順がいえる ⑥ スプリントのチェックアウトができる ⑦ テーピング（主に足関節）を実施できる		

授業スケジュールと内容

回	内　　容	授業方法	課題／小テスト
1･2	①シューホーンブレイスなどの下肢装具作製 ②義足のチェックアウトやアライメント調整 ③足部インソール　④その他　を不定期に開催	実習	実習に臨むにあたり「義肢装具学」で習得した該当箇所の復習
3･4	①シューホーンブレイスなどの下肢装具作製 ②義足のチェックアウトやアライメント調整 ③足部インソール　④その他　を不定期に開催	実習	実習に臨むにあたり「義肢装具学」で習得した該当箇所の復習
5･6	①シューホーンブレイスなどの下肢装具作製 ②義足のチェックアウトやアライメント調整 ③足部インソール　④その他　を不定期に開催	実習	実習に臨むにあたり「義肢装具学」で習得した該当箇所の復習
7･8	①シューホーンブレイスなどの下肢装具作製 ②義足のチェックアウトやアライメント調整 ③足部インソール　④その他　を不定期に開催	実習	実習に臨むにあたり「義肢装具学」で習得した該当箇所の復習
9･10	①シューホーンブレイスなどの下肢装具作製 ②義足のチェックアウトやアライメント調整 ③足部インソール　④その他　を不定期に開催	実習	実習に臨むにあたり「義肢装具学」で習得した該当箇所の復習
11･12	①シューホーンブレイスなどの下肢装具作製 ②義足のチェックアウトやアライメント調整 ③足部インソール　④その他　を不定期に開催	実習	実習に臨むにあたり「義肢装具学」で習得した該当箇所の復習

13･14	①シューホーンブレイスなどの下肢装具作製 ②義足のチェックアウトやアライメント調整 ③足部インソール　④その他　を不定期に開催	実習	実習に臨むにあたり「義肢装具学」で習得した該当箇所の復習
15･16	①シューホーンブレイスなどの下肢装具作製 ②義足のチェックアウトやアライメント調整 ③足部インソール　④その他　を不定期に開催	実習	実習に臨むにあたり「義肢装具学」で習得した該当箇所の復習
17･18	・導入（様々な義肢装具に触れて） ・装着と稼働	実習	実習に臨むにあたり「義肢装具学」で習得した該当箇所の復習
19･20	・4 節リンク膝機構のモデル作製	実習	実習に臨むにあたり「義肢装具学」で習得した該当箇所の復習
21･22	・下肢装具のチェックアウト	実習	実習に臨むにあたり「義肢装具学」で習得した該当箇所の復習
23･24	・テーピングの基礎 ・足関節に対するテーピングの実際	実習	実習に臨むにあたり「義肢装具学」で習得した該当箇所の復習
25･26	・スプリント作製	実習	実習に臨むにあたり「義肢装具学」で習得した該当箇所の復習
27･28	・義手のチェックアウト	実習	実習に臨むにあたり「義肢装具学」で習得した該当箇所の復習
29･30	定期試験	２テーマのレポート	

使用テキスト	①　川村次郎・竹内孝仁　編著、「義肢装具学」、医学書院
参考書・資料　等	①　日本整形外科学会、「義肢装具のチェックポイント」、医学書院 ②　沢村誠志　著、「切断と義肢」、医歯薬出版
この授業科目の前提となる主な科目	①「運動学Ⅰ・Ⅱ」②「整形外科学」
この授業科目から発展する主な科目	①「評価実習」②「臨床実習」③「理学療法総論」
成績評価の方法	①　レポート課題（二つ）
その他 受講生への要望等	①　刃物などを使用するためけがの無いように注意してください ②　模擬義足などは積極的に体験してください

授業科目名	日常生活活動学		
実務経験講師	○	実務経験	理学療法士
開講年度	2024 年度	学　期	前期
年　次	3 年次	授業回数	30 回
単　位　数	4 単位	単位時間数	60 時間
授業科目の概要	理学療法における主となる評価治療対象である日常生活動作について、基礎的概念から各疾患の関連性を含め幅広く学ぶ授業である。利用頻度・応用範囲が広く、理解や習得が困難な科目であるため基礎的な観点からの復習も含め時間をかけて行う内容になっている。		
授業科目の到達目標	1）日常生活における諸障害に関して適切な評価・訓練・指導が説明・選択・実行できる。 2）日常生活活動における自助具・福祉用具の使用、説明ができる。 3）日常生活活動の概念を実用的・実行的な状態で理解できる 4）各単元において提示される基準となる知識に対して学習のうえ答えられる。 5）疾患と日常生活活動の関連性が説明でき、適切な評価項目が提示できる。 6）日常生活に必要な構成要素の理解ができる。		

授業スケジュールと内容

回	内　　容	授業方法	課題／小テスト
1-2	ADL の基礎 教科書の基礎的概念　第1章および第2章の導入として、各論に入る前の全体論の話をする。自分たちの生活を想起しつつ、「生命」「生活」「人生」という枠組みに対する関心を想起させる。	講義	
3-4	ADL 概念と範囲 配布資料「ADL の概念と範囲」に基づき、1-2 回で提示した枠組みに当てはめつつ、理学療法が対応する日常生活の焦点を理解する。	講義	提示課題 「ADL の概念と範囲に関する 10 の質問」を授業後の復習として行う。
5-6	ADL と運動学 配布資料「ADL と運動学」に基づき、運動学において学んできた基礎的知識と日常生活活動を関連付ける。基礎知識の復習も含む。	講義	提示課題 「ADLと運動学に関する10の質問」を授業後の復習として行う。
7-8	ADL 評価 配布資料「ADL 評価」に基づき、日常生活活動をどのように測るのか、理学療法に有益な情報とするのかの導入を行う。	講義	提示課題 「ADL 評価に関する 10 の質問」を授業後の復習として行う。
9-10	ADL 評価 認知症の評価と ADL の考え方を身体機能と活動能力の観点から説明する。 「生命としての LIFE」に関わる範囲の日常生活について説明をする。	講義	提示課題 「ADL 評価に関する 10 の質問」を授業後の復習として行う。

11-12	ADL 評価表 配布資料「ADL 評価表」に基づき、様々な目的に応じて作成された評価表についての解説と適応の説明をする。また別途「FIM」の取り扱いについて、教科書「脳卒中の機能評価 SIAS と FIM」を基に説明する。	講義	提示課題 「ADL 評価表に関する１の質問」を授業後の復習として行う。
13-14	ADL 支援機器（歩行補助具等） 日常生活活動の基礎となる「起居移動動作」について支援する道具について、運動学的観点を含めた説明をする。	講義	提示課題 「self-care に関する 10 の質問」を授業後の復習として行う。
15-16	ADL 支援機器（車椅子） 理学療法士が関わる訓練場面において利用頻度の高い補助具である車イスについて、歴史や構造、種別など多くの観点で説明をおこなう。	講義	提示課題 「self-care に関する 10 の質問」を授業後の復習として行う。
17-18	ADL 各論 1 理学療法で関わる主要疾患と ADL の関わりについて、疾患の基本的な知識から着目すべき日常生活の観点を関連付けて説明する。理解の進捗状況に合わせ疾患ごとの講義に要する時間を調整する。 「片麻痺（CVA）と ADL」	講義	各疾患の「10の質問」を単元後の復習として行う。
19-20	ADL 各論 2「片麻痺（CVA）と ADL」	講義	「片麻痺（CVA）と ADL に関する10の質問」
21-22	ADL 各論 3「脊髄損傷と ADL」	講義	
23-24	ADL 各論 4「脊髄損傷と ADL」	講義	「脊髄損傷と ADLに関する10の質問」
25-26	ADL 各論 5「関節リウマチと ADL」 RA と ADL について、特に関節変形と日常動作を中心に講義する。近年の治療法や対象者の変化についても触れていく。	講義	「関節リウマチと ADL に関する10の質問」
27-28	ADL 各論 6「パーキンソン病と ADL」 パーキンソン病の病態と支障となる ADL について、方向性や考え方について講義する。	講義	「パーキンソン病と ADLに関する10の質問」
29-30	定期試験	筆記試験	

使用テキスト	1）鶴見隆正 他編：標準理学療法学 専門分野 日常生活活動学・生活環境学 第 6 版，医学書院 2）千野直一 他編著：脳卒中の機能評価 SIAS と FIM[基礎編]，金原出版
参考書・資料 等	1）細田多穂 監：シンプル理学療法学シリーズ 日常生活活動学テキスト 改訂第 2 版，南江堂

この授業科目の前提となる主な科目	1）運動学 2）福祉論 3）リハビリテーション概論 4）理学療法概論 5）各臨床医学
この授業科目から発展する主な科目	1）評価実習 2）生活環境学 3）臨床実習
成績評価の方法	1）筆記試験 2）授業態度（復習遂行度：質問など）
その他 受講生への要望等	授業科目名から想像するよりも難易度が高く範囲も広いため疑問を先送りせず順次取り組むべき科目である。各単元において提示される課題はコツコツと取り組むこと。取り組み方に関しても評価対象となるため積極的な態度で臨むこと。

授業科目名	日常生活活動学実習		
実務経験講師	○	実務経験	理学療法士
開講年度	2024 年度	学　期	前期
年　次	3 年次	授業回数	15 回
単　位　数	1 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	日常生活活動を対象とした訓練に必要となる訓練に注目し、基本的な身体技能の向上に焦点を当てた技術の習得を繰り返し行う。また日常生活活動学の授業内容とリンクした実技を適宜行う。		
授業科目の到達目標	1）基本動作の介助および訓練に必要な基本的技術が実施できる。 2）歩行補助具を用いた訓練の基本的技術が実施できる。 3）車イスを用いた訓練の基本的技術が実施できる。 4）移乗動作の指導と訓練の基本的技術が実施できる。 5）疾患を想定した一連の介助・誘導が実用的なレベルで実施できる。		

授業スケジュールと内容

回	内　　容	授業方法	課題／小テスト
1	基本動作の介助	実習	導入に際して指示される共通した注視点を厳守し、普遍的態度とすること。
2	介助を含む対象者への介入方法の基本として、自らも含む身体のコントロールを説明する。	実習	体感したコントロールの運動記憶を繰り返し想起することを意識。
3	教科書「姿勢と動作」「新イラストによる安全な動作解除のてびき」の流れ図を参考に、実際の状況に合わせ実技を行う。	実習	常に思考しつつ、目的を達成するための最適化を自らおこなうこと。
4	基本動作の介助	実習	基本的な対応や注意点に関しての知識を身につけること。
5	1 回のつづき。身体重心のコントロール範囲が広がるため難易度が上がる動作群の実技練習。	実習	難易度の変化と自分自身の身体状況に関して関連付け、各自が課題を持つこと。
6	基本動作の介助	実習	各自の課題を踏まえたうえで、目的を達成するための最適解を模索すること。
7	2 回のつづき。最終的に立位に至るまでの一連の流れを実技で行う。	実習	繰り返しの練習をすることによって、研鑽を深めること。
8	歩行補助具1 歩行補助具の種類と適応に関する日常生活活動学の講義を踏まえ、その使用方法に関する実技を行う。	実習	体感を基に、適応や指導に関しての想像をすること。
9	歩行補助具2 上記授業の続き	実習	同上

10	車椅子実習 車イスに関する日常生活活動学の講義を踏まえ、その使用方法に関する実技を行う。	実習	体感を基に、対象への対応方法の想像をすること。
11	車椅子実習 上記実技の続き	実習	同上
12	実技試験 客観的臨床能力を重視し、条件設定のもとに想定した模擬患者の基本動作介助からトランスファー及び車イス操作を含む一連の介助技術に関して実技試験を行う。	実技試験	提示された条件に対して遅滞なく対応できるよう、事前に十分な練習をもって臨むこと。
13	実技試験 上記試験の総評を含む解説。	実技試験	全体としての問題点と自らの体感に関して照らし合わせること。かつ個別の問題に対して関心を持ち必ずKRを得る機会を自ら作ること。
14	モダンホスピタルショウ見学 日常生活に関連する医療技術や関連情報に関して、最新のものを見学し、その中で意見をまとめる。 各自がテーマを基に見学した内容に基づき、指定書式にまとめ提出をする。	学外見学	規定に基づきレポートを提出する。自分の意見を客観的見地を踏まえ述べること。
15	モダンホスピタルショウ見学 同上	学外見学	同上

使用テキスト	1）齋藤宏　他著：姿勢と動作　第３版，メヂカルフレンド 2）飛松好子　編著：新イラストによる安全な動作解除のてびき　第３版，医歯薬出版
参考書・資料　等	1）細田多穂　監：シンプル理学療法学シリーズ　日常生活活動学テキスト　改訂第2版，南江堂 2）井口恭一　著：イラストわかりやすい移動のしかた　第４版，三輪書店
この授業科目の前提となる主な科目	1）日常生活活動学 2）運動療法学実習Ⅱ 3）基礎実習
この授業科目から発展する主な科目	1）評価実習 2）臨床実習
成績評価の方法	1）実技試験 2）レポート 3）授業態度（実技参加）
その他 受講生への要望等	基本的な実技への心構えを踏まえた上で臨むこと。単なる知識や技術としてだけではなく、実習に臨む学生としての基本的態度をもち緊張感を持続すること。 また、実技試験に関しては他学科教員による客観的な評価も取り入れる予定である。

授業科目名	分野別理学療法学Ⅱ		
実務経験講師	○	実務経験	理学療法士
開講年度	2024 年度	学　期	後期
年　次	3 年次	授業回数	30 回
単　位　数	4 単位	単位時間数	60 時間
授業科目の概要	評価実習による臨床経験後の状況において、理学療法の主要対象である各疾患への対応方法について、臨床現場から講師を招きオムニバス形式で行なう授業である。評価実習セミナーにおける報告の準備と、臨床実習に向けた訓練プログラムの技術的な向上を目的として授業を行う		
授業科目の到達目標	1）理学療法における訓練プログラム立案に関する総合的な理解ができる。 2）臨床実習を踏まえた各主要疾患の総合的な理解ができる。 3）各主要疾患の理解と訓練プログラムとの関係性が説明できる。 4）訓練プログラムの実行にあたり、基本的な手技が実行できる。 5）訓練プログラム立案のために必要な知識や資料を自ら収集できる。		

授業スケジュールと内容

回	内　　容	授業方法	課題／小テスト
1-2	訓練プログラム立案	講義、実習	このレクチャーの内容に基づき疾患と訓練プログラムの関連付けに基本的な考え方を理解し実践できるよう思考する
3-4	訓練プログラム立案	講義、実習	
5-6	スポーツ外傷 スポーツ外傷の理学療法に関する総合的な講義と実技。	講義、実習	
7-8	スポーツ外傷 同上	講義、実習	
9-10	スポーツ外傷 同上	講義、実習	
11-12	RA RA の理学療法に関する総合的な講義と実技。	講義、実習	
13-14	RA 同上	講義、実習	
15-16	介護保険領域・在宅における理学療法 介護保険領域・在宅における理学療法に関する総合的な講義。	講義、実習	
17-18	介護保険領域・在宅における理学療法 同上	講義、実習	

19-20	介護保険領域・在宅における理学療法 介護保険領域・在宅における理学療法に関する総合的な講義。	講義、実習	
21-22	介護保険領域・在宅における理学療法 同上	講義、実習	
23-24	アスレティックリハビリテーション	講義、実習	
25-26	急性期の脳血管障害に対するリハビリテーション	講義、実習	
27-28	フレイルに対するリハビリテーション	講義、実習	
29-30	定期試験 各疾患における総合的な知識が臨床実習レベルにあるかを筆記試験にて確認する。	筆記試験	

使用テキスト	特になし
参考書・資料　等	1）各講師の配布資料　2）石川齊　他編：図解　理学療法技術ガイド，文光堂
この授業科目の前提となる主な科目	1）基礎医学すべて 2）臨床医学すべて
この授業科目から発展する主な科目	1）評価実習セミナー 2）臨床実習
成績評価の方法	1）筆記試験 2）授業態度
その他 受講生への要望等	臨床経験豊富な講師によるオムニバス形式の授業である。非常に貴重な機会であるため余さず情報を受け止められるように、基礎医学・臨床医学の基本的知識はすべての授業において十分な準備をして臨むこと。

授業科目名	生活環境学		
実務経験講師	○	実務経験	理学療法士
開講年度	2024 年度	学　期	後期
年　次	3 年次	授業回数	15 回
単　位　数	2 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	理学療法や人間の行動・活動において重要となる「環境」に対して、理学療法的思考を展開する場合、その認識と理解から適切な応用・実施のための提案をできなくてはならない。 常にある「環境」への関心はその概念の理解と積極的な探索からはじまり、それを解釈してはじめて対象に適応できる力となる。それを理解するための講義と実習である。		
授業科目の到達目標	1）QOL とはなにかを理解し理学療法的思考の基本とできる。 2）バリアフリーとユニバーサルデザインの概念を理解できる。 3）生活環境に対する関心や介入方法を適切に提案、実行できる。 4）地域環境の中で福祉生活環境の判別や適応を理解できる。 5）上記の全てにおいて、情報を多種多様に提示できる。		

授業スケジュールと内容

回	内　　容	授業方法	課題／小テスト
1	ADL と QOL 理学療法の効果や目標を定める際に重要な「人生としての LIFE」にどのように対応するのかを、QOL の理解を通じて考えてゆく。講義は配布資料と教科書の第3章「ADL と QOL」を基に行う。 キーワード：QOL、ADL、人生としての LIFE	講義	QOL 理解のために、評価実習で対象となった方を基にした推測をしてみる。
2	同上	同上	同上
3	住宅改修・環境について 住宅の構造について着目し、個々の対象者に合わせた環境について考えていく。	講義	自宅の廊下の幅や段差、階段等について調べておく。
4	同上	講義	同上
5	バリアフリーとユニバーサルデザイン Ronald Mace の提唱したユニバーサルデザインの概念を ICF における環境因子、促進因子、阻害因子と対比して理解を深める。特に物のユニバーサルデザインに焦点を当て具体例を通じて配布資料を基に講義を行う。 キーワード：UD、BF、ICF	講義	具体例の提示を行うので、自分の身近に置き換えて考える。知らないものについては各自確認を行う。
6	同上	同上	同上
7	バリアフリーとユニバーサルデザイン ICF における環境因子、促進因子、阻害因子と対比して法制度	講義	実存の法律を基に講義を行う。理解に必要な補足情報は各自

	的な、概念への焦点を当て講義を行う。対象として「交通バリアフリー法」を学習教材とする。 キーワード：交通バリアフリー法、ハートビル法		が関係省庁から閲覧すること。
8	バリアフリーとユニバーサルデザイン 対象として「障害者差別解消法」を学習教材とする キーワード：障害者差別解消法、障害を持つアメリカ人法	講義	同上
9	フィールドワーク バリアフリーとユニバーサルデザインの授業を基に「交通バリアフリー法」に適合する対象施設の調査を行う。 調査に関する内容に関しては、各自が対象を決めどのようなアウトカムを得るのか方法を模索し実施すること。 内容は別途詳細を掲示する。	フィールドワーク	学外活動として、社会的規範に即した行動と計画性のある実施をすること。
10	同上	同上	同上
11	車イスメンテナンス実習 理学療法士が実践場面において遭遇する、車イスのトラブルや、それを未然に防ぐ方法などを技術的に体得するために実習をおこなう。 実際に使用する道具も含め、特徴や適用に関するレクチャーの後に、実際に使用して体験する。一連の体験を基に各自が情報の補足を行い、「メンテナンスマニュアル」を作成する。 課題提出は別途詳細を掲示する。	実習	傍観者にならぬよう積極的に参加すること。視野を広げ対象を見据えた「マニュアル作成」を行うこと。
12	同上	同上	同上
13	フィールドワーク 本校の所在地である栃木市を対象として、これまでの授業で学んだ概念の実態調査を行う。対象となる実態に対しての写真撮影を記録として行う。別途詳細を掲示する	フィールドワーク	視野を広げ、対象となるモノと知識を結びつけるように探索をすること。
14	同上	同上	同上
15	発表・総括 フィールドワークで撮影した写真を基に、ユニバーサルデザインを念頭に置きながら多様性のある表現を行う。	実習・資料作成・掲示	情報を伝える対象を意識し多様性のある表現を心がけること。

使用テキスト	1）鶴見隆正　他編：標準理学療法学　専門分野　日常生活活動学・生活環境学　第 6 版，医学書院
参考書・資料　等	1）厚生労働省（https://www.mhlw.go.jp/）「統計情報・白書」 2）国土交通省（http://www.mlit.go.jp/）「交通バリアフリー法」 3）内閣府（https://www.cao.go.jp/）「障害者差別解消法」

この授業科目の前提となる主な科目	1）福祉論 2）日常生活活動学
この授業科目から発展する主な科目	1）評価実習セミナー 2）臨床実習
成績評価の方法	1）フィールドワークレポート 2）車椅子メンテナンスマニュアル 3）授業態度
その他 受講生への要望等	環境という常に接している漠然としたものから具体的な意見をもって行動に変換できるように、自分自身の物事の捉え方が広がるような思考を推奨します。頭を柔らかくして取り組んでください。

授業科目名	評価実習セミナー		
実務経験講師	○	実務経験	理学療法士
開講年度	2024 年度	学　期	後期
年　次	3 年次	授業回数	30 回
単　位　数	2 単位	単位時間数	60 時間
授業科目の概要	評価実習で実施した「検査測定」や「問題点の抽出」、「統合と解釈」を見直し、加筆修正を加えるための授業である。また、他の学生の症例を模擬患者として捉え、様々な疾患に対する検査測定項目の選択や統合と解釈の練習機会とする。さらに、4 年時の臨床実習に向けて治療プログラムの立案も実施する。		
授業科目の到達目標	① 評価実習時の担当症例に関して、要点をまとめ発表することができる。 ② 他者からの意見を尊重し、内容の修正ができる。 ③ 他の学生の症例に関して、積極的に討論できる。 ④ 疾患に対する一般的検査測定項目に加え、症例による能動的評価を考えられる。 ⑤ 評価実習時の担当症例に関して、治療プログラムを立案できる。		

授業スケジュールと内容

回	内　　容	授業方法	課題／小テスト
1-6	評価実習オリエンテーション	講義	
7-9	実習の基準	AL	
10	評価実習Ⅰまとめ	講義	
11-14	評価実習Ⅰ発表	発表	
15	評価実習Ⅱまとめ	講義	
16-19	評価実習Ⅱ発表	発表	
20-30	グループワーク	AL	ピア評価

使用テキスト	応急手当講習テキスト ～救急車がくるまでに～
参考書･資料　等	① 嶋田 智明 編、「ケースで学ぶ 理学療法臨床思考」文光堂
この授業科目の前提となる主な科目	①「理学療法評価学Ⅰ～Ⅳ」②「理学療法評価学実習Ⅰ・Ⅱ」③「理学療法症例研究」 ④「臨床運動学」⑤「日常生活活動学」⑥「運動療法学Ⅰ～Ⅳ」⑦「運動療法学実習Ⅰ・Ⅱ」
この授業科目から発展する主な科目	①「臨床実習」②「分野別理学療法学Ⅰ・Ⅱ」
成績評価の方法	① 提出したレジュメの内容 ② 発表ならびに質疑応答の内容 ③ ピア評価
その他 受講生への要望等	教員からの一方的なレクチャーではなく、受講生同士の意見交換をもとにした症例検討会を望みます。つきましては、積極的な参加を心がけて下さい。

授業科目名	薬理学		
実務経験講師	○	実務経験	薬剤師
開講年度	2024 年度	学　期	前期
年　次	3 年次	授業回数	15 回
単　位　数	2 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	薬理学は「薬物と生体との相互作用の結果起こる現象を研究する科学である。各疾患の理学療法を展開するうえで薬の効果と副作用を知っておくことは患者の治療訓練として必要である。		
授業科目の到達目標	①薬理作用と作用機序が理解できる。 ②薬物動態（生体内運命）と薬効を学習する。 ③副作用と有害作用を学習する。 ④医薬品の管理について学習する。 ⑤各疾患の治療薬を学習する。		

授業スケジュールと内容

回	内　　容	授業方法	課題／小テスト
1	薬物とは	講義	
2	薬物と法令	講義	
3	薬物の作用	講義	
4	薬物の作用	講義	
5	薬物の適用	講義	
6	漢方薬とは、薬物の適用	講義	
7	薬物の体内動態	講義	
8	薬物の代謝	講義	
9	全身麻酔薬	講義	
10	催眠薬、抗不安薬	講義	
11	精神・神経科用薬	講義	
12	抗うつ薬	講義	
13	抗てんかん薬、パーキンソン病薬	講義	
14	麻薬・消毒薬	講義	
15	定期試験	試験	

使用テキスト	木村直史他『看護学入門 2022 第 2 巻 栄養・薬理 第 7 版』（メヂカルフレンド社）
参考書・資料　等	
この授業科目の前提となる主な科目	生理学、病理学
この授業科目から発展する主な科目	作業治療学実習、評価実習、臨床実習
成績評価の方法	1）定期試験　2）その他
その他 受講生への要望等	